

平成 26 年度 子供の貧困対策事業

—青少年の「自立する」力 応援プロジェクト—
「生活・自立支援キャンプ」報告書

国立青少年教育振興機構の各教育施設では、経済的に困窮した家庭の子供を対象に「生活・自立」を支援し、子供達の基本的な生活習慣の確立を目指して、児童養護施設等を対象に 23 事業、母子家庭等を対象に 16 事業、それ以外を対象に 5 事業、合計 44 事業を実施しました。本事業は、様々な関係機関・団体と連携を図り実施しています。

平成 27 年 5 月

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

目 次

事例紹介

体験の風キャンプ in ゆーすぴあ大雪 （国立大雪青少年交流の家）	1
ほっぷ すてっぷ キャンプ～新たな一歩を踏み出すためのチャレンジ～ （国立中央青少年交流の家）	3
のびのびキャンプ in さんべ （国立三瓶青少年交流の家）	5
チャレンジわかもえキャンプ （国立曾爾青少年自然の家）	7
マイ・チャレンジキャンプ （国立夜須高原青少年自然の家）	9
親子のふれあいオリセンキャンプ （国立オリンピック記念青少年総合センター）	11
週末リフレッシュ体験 in 大洲 （国立大洲青少年交流の家）	13
親子で発見！冬のきらめき①② （国立日高青少年自然の家）	15
平成26年度「生活・自立支援キャンプ」実施事業一覧	17
事業報告	18
資料 子供の貧困対策に関する大綱（抜粋）報告	32

児童養護施設と連携



施設名： 大雪青少年交流の家

事業名： 体験の風キャンプ in ゆーすぴあ大雪

日程： 平成27年1月6日(火)～10日(土) 4泊5日

大雪青少年交流の家では、児童養護施設と連携し、平成27年1月6日(火)～10日(土)の4泊5日で「体験の風キャンプ in ゆーすぴあ大雪」を実施した。小・中学生を中心に幼児から大学生まで26人が参加し、イグルー・スノーキャンドル作り、スキー体験、カーリング体験など北海道の冬ならではの雪上活動をメインに実施した。

○実施前

プログラムの立案にあたっては、児童養護施設職員と4度の協議を重ねて決定した。最初は、連携する施設長と副施設長から聞き取りを始め、どのような体験活動が有効で、どのような手法を用い、生活リズムの定着化を図るか検討した。

聞き取りの結果、施設内にプレイホールがあり、体を動かす機会は比較的多いが、施設周辺の空き地が少ない。近所の方から「危険」との指摘を受け、雪国に育つ子が雪に親しめない環境である。

施設長としては、冬場は可能な限り外遊びを奨励している。今後、社会でたくましく生きていく力を全職員の願いとして運営している。

かまくらや雪像、イグルー等を公園などで制作しても（安全上）危険と指摘されることが多い。

コミュニケーション豊かな人間関係力をはじめ、自己責任感・主体的に判断できる力、喜びや悲しみを共感しあえる環境、成就感や達成感を体験して自己肯定感を高めたい。

等、子供達の普段の活動や環境などについての声を聴くことができ、施設の願い・考えをプログラムに取り入れることにした。

○実施中

イグルー作りの際、中高生から「もっと大きく雪をカットしたらいいんじゃない」「ここ固めないとだめでしょ」などと意見が出された。中高生は、あまり意欲的に取り組まないのではないかと児童養護施設の指導員は想像していたが、汗だくになって取り組んでいる姿を見て、指導員は「子供たちは、こんなことがしたかったんだ」と述べていた。

スキー活動では、「リフトに乗るのがいやだ。こわいもん」と嫌がっていた子ども、職員に「このスキー場の雪は『めっちゃいい』。こんな雪はほかにはないぞ」と励まされて、リフトに乗った。一人で滑り降りることができたときには満面の笑顔で、「やったー」と喜んでいました。児童養護施設の指導員は「自分のことのように嬉しかった」と話していた。

副施設長は、「これまで『人』とのつきあいよりも『もの』や『事業』との関わりの中で子供達は体験活動を行ってきた。今回、初めて5日間事業に参加し、『人（大雪職員）』に関心を示し、感情豊かに活動できたことは、今後の学園運営に役立つ」と話し、「こんな多く感想文を書いたことは今まで一度もなかった」と驚かれていた。

○実施後

児童養護施設職員に実施したアンケートには、

中学生さんは、導入や活動の目的、役割などを自然に感じることができると、活動の中で協力し、発展させることができ、それが「楽しかった」につながるのかと思いました。中3の女の子が、行く直前、「行きたくねーのに、勝手に連れて行かれる」とブリップリッでしたが、帰って来てからの作文を見て、「行って良かった」と思えたようです。プログラムはあって、そこに迎えるための準備を工夫することに、今回の企画の醍醐味を感じておりました。

長期休みは、どうしても朝も夜もゆっくりの生活になりやすい状況でした。そんな中で今回の冬キャンプでは、とにかくアクティブに動き、その結果、夜はいつもより早く寝る分早く起きられ、活動時間が増えることで食事量も増えていました。外での活動も多く、体調面での不安もありましたが、大きく体調を崩す子供はいませんでした。

4泊5日という長い期間、大変にお世話になりました。子供たちとの関係の作り方、職員の連携という点で参考にして、今後、実践に活かしていきたいです。多くのことを学ばせて頂きありがとうございます。

等が記載されていた。

また、子供の感想の中に、「大人になったら大雪ではたらきたいと思っています。その時は、よろしくおねがいします。大雪のみなさん本当にありがとうございました。」があった。

児童養護施設と連携



施設名： 中央青少年交流の家

事業名： ほっぷ すてっぷ キャンプ～新たな一歩を踏み出すためのチャレンジ～

日程： 平成27年3月28日(土)～31日(火) 3泊4日

中央青少年交流の家では、児童養護施設と連携し、平成27年3月28日(土)～31日(火)の3泊4日で「ほっぷ すてっぷ キャンプ」を実施した。小・中学生を中心に幼児から高校生まで45人が参加し、ソリ・スキー・スノーボード体験、野外炊事、ミニ防災ラリー、キャンドルのつどいなどを実施した。

○実施前

ネガティブな体験や記憶を想起する可能性があるため、家族の話題は出さないようにした。

テーマが「チャレンジ」なので、子供たちが何事にも積極的にチャレンジできる場づくりを心がけた。具体的には、声掛けする場面では誉める言葉を意識して使った。失敗しても、「もう一回やってみよう」「次はできるかもしれない」といった、前向きな声掛けを心掛けた。

当たり前のがたさを感じられるプログラムを設定した。具体的には、子供だけで野外炊事をする場面を作り、食事を作ることは手間がかかり大変なことに気づかせ、日常で、ご飯の時間になったらご飯が出てくるのがたさを感じられるようにした。

○実施中

人工スキー場での「雪遊び(ソリ・スキー・スノーボード)体験プログラム」を交流の家から、車で約30分の場所にある人工スキー場で、幼児はソリ遊び、小学生はスキー、中学生以上はスノーボードを行った。ほとんどの子供にとって初めての体験であった。「いっぱい転んだけど、転んだのも含めて楽しかった」、「だんだん滑れるようになって嬉しかった」や「また、スキーをやってみたい」という反応があった。

○実施後

参加者の高校生の女の子が「今まで、同じ部屋に住んでいる子とケンカばかりで協力できなかったことがなかったけど、今回初めて協力できたことが嬉しかった、協力の大切さが分か

った」と話してくれた。

また、中学生の女の子が「大人の力を借りなくてもできることがあることに気づけた」と話してくれた。また「園に戻っても部屋のリーダーとして、みんなをまとめたい」と高校生の男の子が話してくれるなど、このキャンプ全体を通して、中高生は、大人から自立できることを学び、また、年長者として小さい子の面倒を見る意識や自覚を持てるようになったのではないかと思われる。

児童養護施設の職員から「普段はあいさつしても「うん」としか言わない子が、しっかり「おはよう」や「ありがとう」と言ってくれていたのが嬉しかった」と話してくれた。

→交流の家の中では、朝・夕のつどいや他団体とすれ違った際などにあいさつをする場面が多かったため、子供も自主的にあいさつができるようになったと推察している。

児童養護施設職員に実施したアンケートには、「子供たちが今までやったことのない事を大人の力を借りずに自分たちの力でやりとげたという事が、子供たち自身の経験や思い出、自分たちの自信につながった事、また自分たちでできる事、できていない事に気づき、課題を見つける事が出来たと思う」とあった。

また、他の職員から「子供の成長の為には、大人が手ではなく、取り組みたくなる課題を出してあげる必要があるのだと思いました。みんなで何かを話し合い取り組むということが最近減っており、これからはそのような時間を取っていきたい。」「普段見られない子供の姿を見る事ができました。いつもは皿1枚で面倒くさいといっている子が自ら食器を洗い、年下の子にも指示する姿が見られた」とあった。

児童養護施設と連携



施設名： 国立三瓶青少年交流の家

事業名： のびのびキャンプ in さんべ

日程： 平成27年1月9日(金)～12日(月) 3泊4日

三瓶青少年交流の家では、児童養護施設と連携し、平成27年1月9日(金)～12日(月)の3泊4日で「のびのびキャンプ in さんべ」を実施した。小学生を中心に高校生まで35人が参加し、調理体験（カレー作り）、クラフト体験、野外での雪遊び、スキー教室など冬ならではの雪上活動をメインに実施した。

○実施前

児童養護施設内では、異年齢（小・中・高校間）で関わる時間が少ないという話を事前協議の中で聞いていたので、活動の中で子供たち同士の関わりが自然に生まれるよう、異年齢で構成した6つの縦割り班を編成した。

調理活動については、「今後の生活場面に活かせるように」という観点から、特別なメニューではなく、子どもたちにとって身近なカレー作りを取り入れた。

社会のいろいろな場に触れさせたいという思いから、外部の施設（調理活動のための施設やスキー場等）を活用した。安全かつスムーズに活動を行うため、場所や時間等について何度も確認を行った。

朝・夕のつどいに参加することにより、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、他の利用団体との関わりの中で、自然にあいさつができるように配慮した。

○実施中

異年齢で構成した縦割り班を適宜活用して活動を行ったことにより、指導者が指導・助言を行う前に班長や班内の年長者が適切な声かけをしていた。特に料理体験の場面では班の中で上手に役割分担を行い、全てのグループが片付けを含めて設定時間よりもずいぶん早く活動を終わることができた。活動を通して、子ども間のつながりも自然に深まり、周りのスタッフから「すごいね。」という声をかけてもらったことで、参加者の自己肯定感の高まりも感じられた。

事業に帯同したスタッフからは「普段年齢別で生活しており、今回のように小学生～高校生の異年齢集団で活動する機会は少ないので、これまで気がつかなかった子どもの良い点をたくさん見つけることができた。」という声が聞かれた。

毎日朝のつどいに参加したことにより、規則正しい生活リズムを守ることができた。また、つどいにおいて旗係の仕事やスピーチを担当したことで、多くの人の前に立つ経験を積むとともに、自分の役割を責任を持って果たす機会となった。他の利用団体の方から「堂々と役割を果たしていたね。」と声をかけてもらった。

今回は大田市内にある公共施設（サンレディー）の調理室を使って調理活動を行った。移動のために時間がかかるという課題はあったが、「清潔で使いやすかった。」「ガスを使うの調理の方が、実際の生活に活用できる。」といった感想があった。

○実施後

子どもたちの感想に「予定がけっこう詰まっていた、忙しかった。もっと自由な時間があつたら、読書やトランプなど好きなことができたのにな。」という声があった。

→三瓶では、「子どもたちに多くのことを体験させてやりたい」という思いから、いろいろな活動を盛り込んだが、体験活動の充実につながった半面、「もう少しゆったりしたい。」という思いを持った子もいたことがわかった。本事業のねらいに迫りながら、ゆとりをもった活動計画を作成していく必要があった。次年度以降の計画の立案に活かしたい。

児童養護施設職員からは、「料理からスポーツ・クラフトまで、多様な活動があつたので、子どもたち一人ひとりの良い点を見つけてやることができた。」「充実した施設、設備の中で、いろんな体験をさせてやることができた。」「普段見ることのできない関わり合いがあつたように思う。」との感想があった。

→三瓶では、活動中、様々なトラブル（口論やけんか等）もあつたが、これも当然のことであり、トラブルを自分たちで解決させていくことを通して、よりよい人間関係の築き方を学びとってもらいたいと捉えている。

また、児童養護施設職員から「引率する立場からすると、3泊4日は少し長い気がする。体力的にはかなりハードだった。」という声があった。

→三瓶では、引率の方にとっては、体力的にハードであつたという感想もあつたので、負担をなるべく軽減できるような支援体制を構築していく必要があると捉えている。

児童養護施設と連携



施設名： 国立曽爾青少年自然の家

事業名： チャレンジわかもえキャンプ

日程： プレ 平成26年12月13日(土)～14日(日) 1泊2日
メイン 平成26年12月25日(木)～28日(日) 3泊4日

曽爾青少年自然の家では、児童養護施設と連携し、平成26年12月13日(土)～14日(日)の1泊2日で「チャレンジわかもえキャンプ」のプレ事業を平成26年12月25日(木)～28日(日)の3泊4日で「チャレンジわかもえキャンプ」のメイン事業を実施した。

小学生を中心に高校生までがプレとメインを合わせて延べ32人が参加し、プレ事業では、そり滑り、クライムウオーク、朝食・昼食づくり（朝ごはんポケットレシピより）、宝探し（フィールドアスレチック）。メイン事業では、雪上運動会、そり滑り、スキー実習、クラブト、ナイトミーティングなど冬ならではの雪上活動を実施した。

○実施前

体力づくりだけでなく、自力で生活するの必要を感じさせるため、プレキャンプのはじめに入所ハイキングを設定した。

事前から参加者がしっかりと指示が聞けないという情報を得ていたため、視覚的な指示、説明方法を取り入れた。

参加者が様々な場面で、プログラムの進行上での役割を担ったり、しおりの作成面での参画を促したりした。

参加者の状況や児童養護施設職員のスキルが十分に把握できてなかったため、プレキャンプを実施し、メインキャンプでのプログラムの展開や職員の役割を配置した。

○実施中

曽爾と児童養護施設との役割を明確にして事業展開した。

プレ事業の自炊では、子供たちが「自炊は、片付けや全てをするので難しいなー、って思った。いつもご飯を作ってくれる人に感謝する」「自分でご飯を作るの大変さを学びました。今まではご飯を他人に任せきりだったので今回学んだ事を明日からやっっていこう

かなと思います。」等のつぶやきや感想があり、朝食及び昼食を自炊することを通してその大変さを実感し、施設で食事の支度をしてくれる方への感謝の気持ちが芽生えたと感じた。

施設の普段の生活の中では、年下の面倒を見ない参加者（中学生）が食事の時のテーブルの片付けやウエアの返却等、自ら考え動くことができた。

参加者が宿泊棟の片付けや清掃等に積極的に取り組み、就寝時間を含め活動において時間を守って行動できたことを児童養護施設の職員が評価していた。

雪上でうまくスキーを扱えない参加者に対して、年上の参加者からそれを支える声が掛けられるなど、普段施設が大切にしていることを、キャンプを通して強化できる場面が見られた事を施設職員から伝えられた。

○実施後

児童養護施設の職員から、「施設での食事の際、年の大きい参加者が、施設の下の子たちの面倒を見るようになった」という声を聞いている。

キャンプでの生活が基本となり、帰った後の施設の生活でも片付け等の姿勢の変化があったと、児童養護施設の職員から聞いた。

子供たちの感想に「来年は一番上なのでしっかりみんなを見て頑張りたい」とあったことから、参加者の中にリーダー的な意識が芽生えてきたのではないかと。

児童養護施設と連携



施設名： 夜須高原青少年自然の家

事業名： マイ・チャレンジキャンプ

日程： 1回目 平成27年2月20日(金)～22日(日) 2泊3日
2回目 平成27年3月21日(土) 日帰り

夜須高原青少年自然の家では、児童養護施設と連携し、平成27年2月20日(金)～22日(日)の2泊3日と平成27年3月25日(水)で「マイ・チャレンジキャンプ」を実施しました。小学生を中心に2回の合計85人が参加し、記念の森ハイキング、農業体験、野外炊飯、人工芝スキー体験などを2つの児童養護施設が合同で実施しました。

○実施前

野外炊飯、農業体験、人工芝スキー体験等、さまざまな体験活動の機会を提供し、今後の豊かな生活づくりのきっかけとする。特に、農業体験では、単発で終わるのではなく、畑作りから種まき・苗植え、除草作業、収穫までの一連の流れを体験させ、収穫した野菜を使った野外炊飯まで体験させたいと企画した。

2施設と連携を図りながら、参加する子供たちの情報を共有し、スムーズな受け入れ体制を整えるとともに、2施設の子供たちが安心できる時間も確保するため、日中の活動班は2施設の子供たち混合とし、宿泊班は各施設ごととした。

○実施中

農業体験では、野菜ごとのうね作りをしたが、うね作りの大変さに子供たちは苦勞していた。子供からは、「きつい」「疲れた」などの声が聞かれ、作業の大変さを実体験を通して感じ取ることができた。

班に一人ずつ合計7班に班付きスタッフをつけるとともに、可能な限り、活動においては職員も参加し、安全管理を十分行った。

記念の森ハイキングでは、自由に遊具や道具を使って遊び子供たちの笑顔が多くみられた。「自由に遊べて楽しかった」「遊具で遊べて楽しい」などの声が聞かれた。両施設間の子供たちの交流が自然な形で図れた。

帰りのバスの中で、互いの施設の子供たちが名札の交換をする姿が見られた。3日間をともにすごしたことで、両施設の子供たちのつながりを今後も大切にしていきたい。

○実施後

寮で普段しない料理を野外炊飯ですることにより、「野菜を切るのが最初怖かったが切れて嬉しかった」「料理を普段しないので、パエリア作りが楽しい」「自分で料理を作って食べるとおいしい」との声が多くきかれた。料理をする機会の少ない子どもたちは班で協力することで、協調性や達成感を味わえたのではないかと思う。

キャンプの帰り際、バスに乗って出発という時に一人の男の子が「これをあの子に渡して」とキャンプで使った名札を職員（夜須高原）に渡してきた。別々のバスでお別れだったので、他の寮の子と名札交換がしたいとのことだった。職員が名札を届け、その子の名札を渡すととても嬉しそうな表情をした。この時、見ていた職員はこのキャンプをして良かったと心から感じた。普段学校や寮の子としか会う機会がないので、次年度にこのキャンプを繋げていこうと思った。

また、班での活動を重視したため班以外の寮の子と触れ合う機会がなかった。活動の中で班以外の子とも接触できる時間を確保していく必要があると感じた。

母子家庭等と連携

施設名：国立オリンピック記念青少年総合センター

事業名：親子のふれあいオリセンキャンプ

日 程：平成27年3月7日(土)～8日(日) 1泊2日



機構本部（国立オリンピック記念青少年総合センター）では、母子寡婦福祉連合会と連携し、平成27年3月7日(土)～8日(日)の1泊2日で「親子のふれあいオリセンキャンプ」を実施した。幼児を中心に親子で30人が参加し、交流プログラム、カラダを動かして遊ぶ、野外炊飯、ラジオ体操を親子で行い、親子別プログラムとして、子供は母に捧げる手づくりアウトドアディナー、歌とお話し会。保護者は座談会を実施した。

○実施前

母子別々で入浴、就寝することで、母親とではなく、ボランティアとお風呂に入ったり、大きな部屋にみんなで泊まる経験から、楽しくルールの枠の中に居続ける体験を提供した。

普段目いっぱい体を動かして遊ぶ機会が少ないため、就寝時間が非常に遅いという情報を事前のアンケートで収集した。そのため、体と心が疲れ果ててぐっすり眠るために、「動」のプログラムを多く用意した。

夜の母子別々プログラムや入浴、就寝を母子別々にすることで、母離れ、子離れの推奨。母は育児の息抜き、子は大冒険ができると考えた。

○実施中

野外活動広場に、ジップライン（ターザンロープ）、ハイジ（高所）ブランコ、木登りロープ、たき火、基地づくり、自由遊び、絵本広場を展開し、参加者が自由に遊べる場づくりを行った。子どもたちは自分の好きなアクティビティをスタッフと一緒に体験したり、自分たちで新しい遊びを考えるなど生き生きとしていた。母親たちは、たき火の周りに集まり、普段できないのんびりとした時間を過ごしていた。

時間がたち、慣れてくるにつれ、危険な遊びを考えたり、悪ふざけが過ぎる子どもたちがでてきたが、男性スタッフから厳しく叱られるという体験をとおして、やって良いこと、悪いことを考える良いきっかけになっていたようだった。

退所にあたっての部屋掃除や食事プログラムの片づけは積極的に子どもたちが行った。

○実施後

保護者から、「大人の男性と大浴場にはいったことが無い。とても楽しかったようだ。」

「男性スタッフが子どもたちをしっかりと叱ってくれていた。母親ではできないことをスタッフがおこなってくれて、母子ともに大満足であった。」との感想を得た。

→子供達は、大人の男性と遊んだり、生活体験をしたり、怒られたりといった経験が少なく、母親からしか怒られたり叱られたりしないため、大人の男性からの注意に対して、最初はきかなかった子供も、繰り返し怒られることで、真剣に話を聞くようになった。機構職員は、幼少期の大人との関わりが子どもたちに与える影響は大きいと改めて感じた。

母子家庭等と連携

施設名：大洲青少年交流の家

事業名：週末リフレッシュ体験 in 大洲

日程：平成27年2月28日(土)～3月1日(日) 1泊2日



大洲青少年交流の家では、母子生活支援センター等と連携し、平成27年2月28日(土)～3月1日(日)の1泊2日で「週末リフレッシュ体験 in 大洲」を実施した。幼児と小学生を中心とした親子20人が参加し、スポーツクライミング、クラフト作り、野外炊事等施設で実施しているプログラムを中心に活動した。

○実施前

どのような母親、子供なのか、家庭がどのような状況なのか、どのようなニーズがあるのかを、事前に知ったうえでプログラムを組むために、関係機関との事前の連携、調整がより一層必要になる。企画段階から連絡を取り合い、事業の趣旨・要請と対象参加者のニーズをうまくすりあわせたプログラム構築を図った。

募集の際、日々の生活に疲れた母親にとっては、「母親だけのプログラム」を開催要項・募集要項に記載すると、構えてしまって参加しようと思わないと聞いたため、開催要項には親子分かれるとは書かず、自然な形で分かれるような場面を工夫した。

今回は、木のクラフトでバードコールをつくった後、子どもだけ鳥が応えるか試しに野外に出た。親だけの場面を作ったが、和やかに話ができる座談会のような場と機会を提供できた。

また、事業の趣旨から、参加者の年齢制限はできないと判断し、野外炊事等危険を伴うプログラムにおける未就学児の対応のため、通常の事業より多くの職員を配置した。

○実施中

小学生がクラフト（木のネームタグ作り）中に、「お母さんにありがとうって書こうって。いつもご飯とかつくってくれてるから」とつぶやいていた。

→大洲の職員は、小学生は母親が苦勞して育てていることを、十分に自覚していることがわかった。

保護者は、「この木のクラフト、大人も夢中になりますね」と話していた。

→大洲の職員は、子供から大人まで楽しめるプログラムは、一緒に活動し、自然に会話も生ま

れていくので効果的であると感じた。

小学生が野外炊事中に、「これくらいなら、僕でもできる。」「家でも僕がやる」とつぶやいていた。

→大洲の職員は、1泊2日という短い体験でも、実体験から、学ぶことができると感じた。

○実施後

保護者の方から「普段子どもと全然話す機会がなく、今回の事業のおかげで子どもとゆっくり過ごすことが出来て、ありがたかった。」と感想が寄せられた。

また、保護者の方から「ふだんは、小さい子や大きい子がいっしょにいる、こういう体験ができないから、親子ともに。ほんとに今日はいい体験ができてるとおもうよ。」と感想が寄せられた。

母子生活支援センターの職員が「同じ施設でも子供同士は集団登校で交流があるが、母親同士はあまりゆっくりしゃべることもない。」と言われた。

→大洲の職員は、母親は疲れていて、「交流や体験」には消極的かもしれない、との事前情報に対し、実際に交流の場と機会があると意外に母親達も「交流」のニーズがあると感じた。

施設参加者、保護者参加者ともに「夏来たかったなー」「カヌーがしたいなー」と言っていた。

→大洲の職員は、カヌーは当所の目玉プログラムであり、所内の至る所に掲示しており、参加者の興味を引いた。次年度の実施時期を検討する必要があると感じた。

母子家庭等と連携



施設名：日高青少年自然の家

事業名：親子で発見！冬のきらめき①②

日 程：①平成27年1月17日(土)～18日(日) 1泊2日

②平成27年1月24日(土)～25日(日) 1泊2日

日高青少年自然の家では、母子寡婦福祉連合会と連携し、平成27年1月17日(土)～18日(日)と1月24日(土)～25日(日)の1泊2日で「親子で発見！冬のきらめき①②」を実施した。小学生を中心に親子で2回合計53人が参加し、スキー、雪遊び、クラフト制作、スノーラフティングを親子で行い、親子別プログラムとして、子供は料理体験。保護者は子育て講話、座談会を実施した。

○実施前

母子家庭等ひとり親家庭の団体と施設が連携して事業を実施したが、親子で一緒に体験活動をする機会が少ないことが事前の打ち合わせで明らかになった。そのため、スキー体験やクラフト実施時は、親子での活動時間を多くするように企画した。

連携団体のスタッフから、「母子家庭は、子育てについて相談できる相手が少ない」「子供が一人の時間が多いほか、携帯電話を早めにもたせる傾向にある」等の情報を得たので、保護者プログラムにおいて意見交流の時間を多くしたほか、「子供とメディアの関係」について専門家による講話を実施した。

また、「シングルマザーは、しっかり子供を育てたいという意志が強い。子育てや仕事のストレスも相まって、子供にきつくあたる傾向にある。友達とおしゃべりをしたり、子供のことを考えないで、自分が楽しいと思える趣味の時間などをつくることができれば子育てへの意欲がさらに高まる」という話を伺った。母子家庭対象事業の際には、保護者だけで話す時間を設けたり、保護者だけの体験活動プログラムを充実させるなどの配慮をすることで、余裕を持って子供に向き合えるようになるのではないかと考えた。

○実施中

「料理体験」(子供プログラム)を保護者プログラムと並行して実施。母親のために昼食のオムライスをつくった。また、感謝の気持ちを具体的に伝えるために手紙を書き、料理に添えて手渡した。子供たちは、講師の説明を聴きながら真剣にオムライスづくりに取り組んだ。きれいにできた方を母親に渡すなどの心遣いが見られた。母親は子供たちの料理に

感激するとともに、サプライズとして渡された手紙に涙を流しながら感謝の言葉を伝えていた。

子供たちが家庭で一人である時間が多いことから、自分で食事づくりに取り組むことができるよう「朝ごはんポケットレシピ」を配布した。

子供プログラムの料理体験は「お母さんに感謝の気持ちを込めてオムライス」をつくったが、「うちのお母さんの方が上手」「私よりお母さんのほうがすごい」などと、自分の母親を自慢しあう様子が見られた。

高学年が低学年に部屋の整理整頓の仕方や、調理器具の使い方を優しく教える場面が見られた。

母親は普段子育ての悩みを話す機会が少ないようで、保護者プログラムの意見交流の場面では、苦勞していることを話したり、アドバイスしあっていた。

○実施後

参加の保護者が「子供にいろいろな体験をさせたいと思っているが、一人で育てていると、時間的にも経済的にも厳しい。車もないので、遠出もできない。このような機会は本当に貴重なので、シャトルバスなどがあればもっと参加させられる」と話していた。困難な環境にある子供や保護者のために、交通手段を確保できれば、もっと体験活動に取り組むことができるのではないかと考える。

連携団体のスタッフが「お母さんは、キャンプや登山などのアウトドアが苦手なので、子供たちは自然体験の機会が少ない」と話していた。母子家庭の自然体験活動に対するニーズの高さに日高の職員が気付くことができた。

平成26年度「生活・自立支援キャンプ」実施事業一覧

都道府県	施設名	事業名	実施日	参加者数	連携機関
東京都	国立オリンピック記念青少年総合センター	親子のふれあいオリセンキャンプ	3月7日～3月8日	30	母子家庭等
北海道	国立大雪青少年交流の家	体験の風キャンプinゆーすびあ大雪	1月6日～1月10日	26	児童養護施設等
福島県	国立磐梯青少年交流の家	チャレンジ スキー キャンプ!	1月17日～1月18日	23	児童養護施設等
		レッツ トライ キャンプ!	2月7日～2月8日	9	NPO法人
群馬県	国立赤城青少年交流の家	あかぎグローアップキャンプ	2月6日～2月8日	30	児童養護施設等
石川県	国立能登青少年交流の家	サイクリングキャンプ	11月22日～11月24日	17	児童養護施設等
		春休み親子自然体験教室	3月28日～3月29日	38	母子家庭等
岐阜県	国立乗鞍青少年交流の家	のりくら雪ん子スノーキャンプ	3月29日～3月31日	22	児童養護施設等 母子家庭等
静岡県	国立中央青少年交流の家	ほっぶ すてっぶ キャンプ ～新たな一歩を踏み出すためのチャレンジ～	3月28日～3月31日	45	児童養護施設等
兵庫県	国立淡路青少年交流の家	学生リーダーキャンプ	3月12日～3月14日	20	あしなが育英会
		親子ふれあいキャンプ	3月21日～3月22日	45	母子家庭等
		チャレンジキャンプ	3月26日～3月28日	12	児童養護施設等
		自然満喫キャンプ	3月27日～3月28日	74	母子家庭等
島根県	国立三瓶青少年交流の家	のびのびキャンプinさんべ	1月9日～1月12日	35	児童養護施設等
広島県	国立江田島青少年交流の家	親子でとっておき体験	3月7日～3月8日	31	母子家庭等
愛媛県	国立大洲青少年交流の家	週末リフレッシュ体験in大洲	2月28日～3月1日	20	母子家庭等
沖縄県	国立沖縄青少年交流の家	とかしきチャレンジキャンプ2014	12月25日～12月27日	35	児童養護施設等
		のびのび自然体験inとかしき島	3月21日～3月22日	49	母子家庭等
北海道	国立日高青少年自然の家	親子で発見! 冬のきらめき①	1月17日～1月18日	38	母子家庭等
		親子で発見! 冬のきらめき②	1月24日～1月25日	15	母子家庭等
宮城県	国立花山青少年自然の家	春休み体験活動inはなやま	3月24日～3月26日	65	児童養護施設等
福島県	国立那須甲子青少年自然の家	なすかしの森 わくわくサタデー【1回目】	1月16日～1月17日	19	教育委員会
		なすかしの森 わくわくサタデー【2回目】	2月6日～2月7日	19	教育委員会
長野県	国立信州高遠青少年自然の家	信州高遠ぼっかぼかキャンプ①	1月11日～1月12日	31	児童養護施設等
		信州高遠ぼっかぼかキャンプ②	2月10日～2月11日	35	児童養護施設等
新潟県	国立妙高青少年自然の家	雪と遊ぼうin妙高①	1月31日～2月1日	44	母子家庭等
		雪と遊ぼうin妙高②	3月14日～3月15日	40	母子家庭等
富山県	国立立山青少年自然の家	スノーキャンプin立山	1月24日～1月25日	9	児童養護施設等
		ホップ・ステップ・ジャンプ ありがとうキャンプ	3月21日～3月22日	29	児童養護施設等
福井県	国立若狭湾青少年自然の家	若狭湾ウィンターキャンプ	1月10日～1月12日	11	児童養護施設等
奈良県	国立曾爾青少年自然の家	チャレンジわかもえキャンプ【プレ】	12月13日～12月14日	17	児童養護施設等
		チャレンジわかもえキャンプ【メイン】	12月25日～12月28日	15	児童養護施設等
岡山県	国立吉備青少年自然の家	キッズチャレンジ隊	12月25日～12月28日	16	児童養護施設等
徳島県	国立山口徳地青少年自然の家	スマイルフォアオールキャンプ	2月17日～2月20日	7	児童養護施設等
高知県	国立室戸青少年自然の家	ふれあいむろと塾Ⅱ	3月7日～3月8日	9	母子家庭等
		ふれあいむろと塾Ⅰ	3月27日～3月30日	18	児童養護施設等
福岡県	国立夜須高原青少年自然の家	ウィンターラーニングキャンプin夜須高原	1月11日～1月12日	6	母子家庭等
		夜須高原スマイルライフキャンプ	1月17日～1月18日	32	母子家庭等
		夜須高原マイ・チャレンジキャンプ【1回目】	2月20日～2月22日	43	児童養護施設等
		夜須高原マイ・チャレンジキャンプ【2回目】	3月21日	42	児童養護施設等
長崎県	国立諫早青少年自然の家	おやこふれ愛キャンプ①	1月24日～1月25日	9	母子家庭等
		おやこふれ愛キャンプ②	2月28日～3月1日	6	母子家庭等
鹿児島県	国立大隅青少年自然の家	生活・自立支援キャンプin奄美【事前研修】	1月10日～1月11日	19	児童養護施設等
		生活・自立支援キャンプin奄美【本研修】	3月26日～3月30日	19	児童養護施設等

事業名／親子のふれあいオリセンキャンプ

施設名／国立オリンピック記念青少年総合センター

実施日／平成27年3月7日（土）～8日（日）（1泊2日）

連携機関／母子家庭等 参加者数／30人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/7（土）	・「カラダを動かして遊ぼう」（木遊び、野遊び、火遊び） ・「こどもレストラン」（母に捧げる手作りアウトドアディナー） ・「母子別プログラム（親：子育て支援について研修会 子：歌とお話会）」
3/8（日）	「親子対決！野外炊事」

事業名／体験の風キャンプinゆーすぴあ大雪

施設名／国立大雪青少年交流の家

実施日／平成27年1月6日（火）～10日（日）（4泊5日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／26人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/6（火）	・正月遊びリンピック、イグルー、スノーキャンドル制作①
1/7（水）	・読書活動、旭山動物園見学、イグルー、スノーキャンドル制作②
1/8（木）	・読書活動、スキー体験、イグルー、スノーキャンドル制作③
1/9（金）	・読書活動、イグルー、スノーキャンドル制作④ ・買い物活動、調理活動、極寒パーティー
1/10（土）	・カーリング、犬ぞり体験

事業名／チャレンジスキーキャンプ

施設名／国立磐梯青少年交流の家

実施日／平成27年1月17日（土）～18日（日）（1泊2日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／23人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/17（土）	・スキー実習、買い物、夕食作り、学習相談
1/18（日）	・清掃活動、雪のアクティビティ

事業名／レッツトライキャンプ

施設名／国立磐梯青少年交流の家

実施日／平成27年2月7日（土）～8日（日）（1泊2日）

連携機関／NPO法人 参加者数／9人

事業の日程・内容

月／日	内容
2/7（土）	・交流ゲーム、買い物（夕食の材料）、雪のアクティビティ ・学習相談、夕食作り
2/8（日）	・学習相談、体づくり、昼食（テーブルマナー）

事業名／あかぎグローアップキャンプ

施設名／国立赤城青少年交流の家

実施日／平成27年2月6日（金）～8日（日）（2泊3日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／30人

事業の日程・内容

月／日	内容
2/6（金）	・レクリエーションゲーム
2/7（土）	・スキー教室、雪遊び
2/8（日）	・料理体験（おきりこみうどん）、創作活動（フォトフレーム作り）

事業名／サイクリングキャンプ

施設名／国立能登青少年交流の家

実施日／平成26年11月22日（土）～24日（月）（2泊3日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／17人

事業の日程・内容

月／日	内容
11/22（土）	・50km サイクリング、野外炊事
11/23（日）	・40km サイクリング、のとじま水族館見学。キャンドルセレモニー
11/24（月）	・クラフト作り、フライングディスクゴルフ

事業名／春休み親子自然体験教室

施設名／国立能登青少年交流の家

実施日／平成27年3月28日（土）～29日（日）（1泊2日）

連携機関／母子家庭等 参加者数／38人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/28（土）	・そば打ち&サラダ作り、ディスクゴルフ、キャンドルセレモニー
3/29（日）	・のとじま水族館見学

事業名／のりくら雪ん子スノーキャンプ

施設名／国立乗鞍青少年交流の家

実施日／平成27年3月29日（日）～31日（火）（2泊3日）

連携機関／児童養護施設等、母子家庭等 参加者数／22人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/29（日）	・交流会1（遊びリンピック）、スキー教室
3/30（月）	・スキー教室、交流会（作って食べよう）
3/31（火）	・スキー教室

事業名／ほっぷ すてっぷ キャンプ～新たな一歩を踏み出すためのチャレンジ～

施設名／国立中央青少年交流の家

実施日／平成27年3月28日（土）～31日（火）（3泊4日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／45人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/28（土）	・寝袋体験に挑戦
3/29（日）	・野外炊事、ミニ防災ラリー
3/30（月）	・雪山体験、キャンドルのつどい
3/31（火）	・まとめの会

事業名／学生リーダーキャンプ

施設名／国立淡路青少年交流の家

実施日／平成27年3月12日（木）～14日（土）（2泊3日）

連携機関／あしなが育英会 参加者数／20人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/12（木）	・ミーティング、野外炊事、スポーツ大会
3/13（金）	・カッター研修、ミーティング、スポーツ大会
3/14（土）	・退所式

事業名／親子ふれあいキャンプ

施設名／国立淡路青少年交流の家

実施日／平成27年3月21日（土）～22日（日）（1泊2日）

連携機関／母子家庭等 参加者数／45人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/21（金）	・野外炊事、キャンドルのつどい
3/22（土）	・お香づくり、浜辺で遊ぼう！

事業名／チャレンジキャンプ

施設名／国立淡路青少年交流の家

実施日／平成27年3月26日（木）～28日（土）（2泊3日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／12人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/26（木）	・カッター研修、キャンドルサービス
3/27（金）	・チャレンジウォーク
3/28（土）	・野外炊事

事業名／自然満喫キャンプ

施設名／国立淡路青少年交流の家

実施日／平成27年3月27日（金）～28日（土）（1泊2日）

連携機関／母子家庭等 参加者数／74人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/27（金）	・ 始まりの式（オリエンテーション等）、野外炊事 ・ 親子別プログラム（親：交流会 子：キャンドルのつどい）
3/28（土）	・ 自然体験プログラム 低学年：砂の造形、ストーンペインティング 高学年：地域探究ウォークラリー ・ 終わりの式

事業名／のびのびキャンプinさんべ

施設名／国立三瓶青少年交流の家

実施日／平成27年1月9日（金）～12日（月）（3泊4日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／35人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/9（金）	・ オリエンテーション、出会いのつどい
1/10（土）	・ 学習時間、料理体験（カレー作り）、選択活動（遊びリンピック等）
1/11（日）	・ 学習時間、スキー教室、キャンドルのつどい
1/12（月）	・ 学習時間、クラフト作り

事業名／親子でとっておき体験

施設名／国立江田島青少年交流の家

実施日／平成27年3月7日（土）～8日（日）（1泊2日）

連携機関／母子家庭等 参加者数／31人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/7（土）	・ 親子でウォークラリー、カプラで遊ぼう
3/8（日）	・ 早朝 日の出体験ツアー、アウトドアクッキング

事業名／週末リフレッシュ体験in大洲

施設名／国立大洲青少年交流の家

実施日／平成27年2月28日(土)～3月1日(日) (1泊2日)

連携機関／母子家庭等 参加者数／20人

事業の日程・内容

月／日	内容
2/28(土)	・スポーツライミング、クラフト作り
3/1(日)	・野外炊事(ローストチキン、パエリア)

事業名／とかしきチャレンジキャンプ2014

施設名／国立沖縄青少年交流の家

実施日／平成26年12月25日(木)～27日(土) (2泊3日)

連携機関／児童養護施設等 参加者数／35人

事業の日程・内容

月／日	内容
12/25(木)	・星空観察、スポーツ、レクリエーション、学習
12/26(金)	・チャレンジウォーク、クリスマスパーティー ・スポーツ、レクリエーション、学習
12/27(土)	・海洋研修(カヌー、カヤック、スノーケリング)

事業名／のびのび自然体験inとかしき島

施設名／国立沖縄青少年交流の家

実施日／平成27年3月21日(土)～22日(日) (1泊2日)

連携機関／母子家庭等 参加者数／49人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/21(土)	・野外炊事、海の散策貝拾い。ふれあいレクリエーション ・親子別プログラム(親:座談会 子:レクリエーション、スポーツ)
3/22(日)	・海洋研修(カヌー、カヤック、スノーケリング)、クラフト作り

事業名／親子で発見！冬のきらめき①

施設名／国立日高青少年自然の家

実施日／平成27年1月17日（土）～18日（日）（1泊2日）

連携機関／母子家庭等 **参加者数**／38人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/17（土）	・スキー、スノーボード、親子で協力ゲーム、クラフト作り（万華鏡）
1/18（日）	・スノーラフティング ・親子別プログラム 親：講和、交流「親だけじゃ子供は育たない」 子：料理体験、お母さんへお手紙

事業名／親子で発見！冬のきらめき②

施設名／国立日高青少年自然の家

実施日／平成27年1月24日（土）～25日（日）（1泊2日）

連携機関／母子家庭等 **参加者数**／15人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/24（土）	・スキー、スノーボード、親子で協力ゲーム、クラフト作り（万華鏡）
1/25（日）	・スノーラフティング ・親子別プログラム 親：講和、交流「親だけじゃ子供は育たない」 子：料理体験、お母さんへお手紙

事業名／春休み体験活動inはなやま

施設名／国立花山青少年自然の家

実施日／平成27年3月24日（火）～26日（木）（2泊3日）

連携機関／児童養護施設等 **参加者数**／65人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/24（火）	・講話「マジシャンへの道」
3/25（水）	・スキー体験
3/26（木）	・料理体験

事業名／なすかしの森 わくわくサタデー

施設名／国立那須甲子青少年自然の家

実施日／平成27年1月16日（金）～17日（土）（1泊2日）【1回目】

平成27年2月6日（金）～7日（土）（1泊2日）【2回目】

連携機関／教育委員会 参加者数／各19人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/16（金）2/6（金）	・米とぎ体験、読み聞かせ、読書、宿題
1/17（土）2/7（土）	・朝食作り、雪遊び、スキー活動、クラフト作り、スキー活動

事業名／信州高遠ぽっかぽかキャンプ①

施設名／国立信州高遠青少年自然の家

実施日／平成27年1月11日（日）～12日（月）（1泊2日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／31人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/11（日）	・スキー、そり体験、星空観察
1/12（月）	・お正月遊び、もちつき体験

事業名／信州高遠ぽっかぽかキャンプ②

施設名／国立信州高遠青少年自然の家

実施日／平成27年2月10日（火）～11日（水）（1泊2日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／35人

事業の日程・内容

月／日	内容
2/10（火）	・料理体験（お好み焼き）
2/11（水）	・クラフ作り（マイ箸等）、昼食を作ろう、そりすべり体験

事業名／雪と遊ぼうin妙高①

施設名／国立妙高青少年自然の家

実施日／平成27年1月31日（土）～2月1日（日）（1泊2日）

連携機関／母子家庭等 参加者数／44人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/31（土）	・そり、チュービング、雪遊び、アルペンスキー ・雪上キャンドルセレモニー、ディナーミーティング
2/1（日）	・調理体験（ソーセージ）、アルペンスキー、そり、雪遊び

事業名／雪と遊ぼうin妙高②

施設名／国立妙高青少年自然の家

実施日／平成27年3月14日（土）～3月15日（日）（1泊2日）

連携機関／母子家庭等 参加者数／40人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/14（土）	・そり、チュービング、雪遊び、アルペンスキー ・雪上キャンドルセレモニー、ディナーミーティング
3/15（日）	・調理体験（ソーセージ）、アルペンスキー、そり、雪遊び

事業名／スノーキャンプin立山

施設名／国立立山青少年自然の家

実施日／平成27年1月24日（土）～1月25日（日）（1泊2日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／9人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/24（土）	・大丸山登山、雪遊び、おやつ作り、星の話とプラネタリウム
1/25（日）	・スキー実習スキー実習

事業名／ホップ・ステップ・ジャンプ ありがとうキャンプ

施設名／国立立山青少年自然の家

実施日／平成27年3月21日（土）～3月22日（日）（1泊2日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／29人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/21（土）	・しりすべり、チューブそり、クロスカントリースキー、クラフト作り
3/22（日）	・おやつ作り、クラフト作り

事業名／若狭湾ウィンターキャンプ

施設名／国立若狭湾青少年自然の家

実施日／平成27年1月10日（土）～12日（月）（2泊3日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／11人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/10（土）	・オリエンテーション、クラフト作り
1/11（日）	・自然体験活動（スキー、雪遊び）
1/12（月）	・料理体験

事業名／チャレンジわかもえキャンプ

施設名／国立曾爾青少年自然の家

実施日／平成26年12月13日（土）～12月14日（日）（1泊2日）【プレ】

平成26年12月25日（木）～12月28日（日）（3泊4日）【メイン】

連携機関／児童養護施設等 参加者数／17人【プレ】15人【メイン】

事業の日程・内容

月／日	内容
12/13（土）	・ハイキング、そり滑り、クライミングウォール ・ウィンターナイトイベント
12/14（日）	・朝食作り、昼食作り
12/25（木）	・館内ハイキング、ナイトミーティング
12/26（金）	・雪上運動会 ・スキー体験、創作活動（スプーン）、ナイトミーティング
12/27（土）	・スキー体験、ナイトミーティング
12/28（日）	・掃除、片づけ、退所

事業名／キッズチャレンジ隊

施設名／国立吉備青少年自然の家

実施日／平成26年12月25日（木）～12月28日（日）（3泊4日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／16人

事業の日程・内容

月／日	内容
12/25（木）	・仲間づくりゲーム、クラフト作り料理体験、天体観測
12/26（金）	・ツリーイング、スコアオリエンテーリング、料理体験
12/27（土）	・スキー体験、キャンプファイヤー
12/28（日）	・クラフト作り、料理体験、まとめ（作文）

事業名／スマイルフォアオールキャンプ

施設名／国立山口徳地青少年自然の家

実施日／平成27年2月17日（火）～2月20日（金）（3泊4日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／7人

事業の日程・内容

月／日	内容
2/17（火）	・オリエンテーション、徳地アドベンチャープログラム、天体観測
2/18（水）	・農場見学、新聞エコバッグづくり、農業体験 ・収穫した野菜を使って夕食作り、朝食用ジャムづくり
2/19（木）	・朝食作り、昼食用おにぎりづくり ・農業体験、スーパーへの出荷体験、イチゴハウス清掃 ・押し花アートでメッセージカード作り ・収穫した野菜を使って夕食作り、翌日のスマイルパーティー計画
2/20（金）	・朝食づくり、集落センター清掃、農業体験 ・スマイルパーティー準備、スマイルパーティー

事業名／むろとふれあい塾Ⅱ

施設名／国立室戸青少年自然の家

実施日／平成27年3月7日（土）～8日（日）（1泊2日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／9人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/7（土）	・貝殻樹脂アート（ペーパーウェイト）、草スキー、ボール遊び、星空観察
3/8（日）	・イルカにチャレンジ、かつおのタタキ作り体験

事業名／むろとふれあい塾 I

施設名／国立室戸青少年自然の家

実施日／平成27年3月27日（金）～30日（月）（3泊4日）

連携機関／児童養護施設等 参加者数／18人

事業の日程・内容

月／日	内容
3/27（金）	・ものづくりにチャレンジ、草スキー、おもしろ自転車体験 ・学習時間「苦手な勉強にチャレンジ」
3/28（土）	・室戸岬探索、イルカにチャレンジ、野外炊事メニュー考案
3/29（日）	・フラワーアレンジにチャレンジ、野外炊事、星空観察
3/30（月）	・フィールドフォトビンゴ

事業名／ウィンターラーニングキャンプin夜須高原

施設名／国立夜須高原青少年自然の家

実施日／平成27年1月11日（日）～1月12日（月）（1泊2日）

連携機関／母子家庭等 参加者数／6人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/11（日）	・学習時間、英語でウォークラリー、天体観測
1/12（月）	・脳活クッキング

事業名／夜須高原スマイルライフキャンプ

施設名／国立夜須高原青少年自然の家

実施日／平成27年1月17日（土）～1月18日（日）（1泊2日）

連携機関／母子家庭等 参加者数／32人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/17（土）	・野外炊事「親子でピザづくり」、林間ボブスレー体験 ・きもだめし、木星観測
1/18（日）	・人工芝スキー体験、人工芝スキー体験

事業名／夜須高原マイ・チャレンジキャンプ

施設名／国立夜須高原青少年自然の家

実施日／平成27年2月20日（金）～2月22日（日）（2泊3日）【1回目】

実施日／平成27年3月21日（土）（日帰り）【2回目】

連携機関／児童養護施設等 参加者数／43人【1回目】 42人【2回目】

事業の日程・内容

月／日	内容
2/20（金）	・オリエンテーション、係決め
2/21（土）	・農業体験、ハイキング、野外炊事、班別活動、班対抗スポーツ大会
2/22（日）	・人工芝スキー体験
3/21（土）	・農業体験

事業名／おやこふれ愛キャンプ①

施設名／国立諫早青少年自然の家

実施日／平成27年1月24日（土）～25日（日）（1泊2日）

連携機関／母子家庭等 参加者数／9人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/24（土）	・親子ふれあいレクリエーション、栄養士による食育指導 ・親子別プログラム（親：講師を交えた親子談義 子：レクリエーション）
1/25（日）	・親子でフィールド宝探し、焼き芋づくり、テーブルマナー講習

事業名／おやこふれ愛キャンプ②

施設名／国立諫早青少年自然の家

実施日／平成27年2月28日（土）～3月1日（日）（1泊2日）

連携機関／母子家庭等 参加者数／6人

事業の日程・内容

月／日	内容
2/28（土）	・親子ふれあいレクリエーション、栄養士による食育指導 ・親子別プログラム（親：講師を交えた親子談義 子：レクリエーション）
3/1（日）	・親子でフィールド宝探し、焼き芋づくり、親子でクラフト作り ・テーブルマナー講習

事業名／生活・自立支援キャンプin奄美

施設名／国立大隅青少年自然の家

実施日／平成27年1月10日（土）～11日（日）（1泊2日）【事前研修】

平成27年3月26日（木）～30日（月）（4泊5日）【本研修】

連携機関／児童養護施設等 参加者数／各19人

事業の日程・内容

月／日	内容
1/10（土）	・学習「奄美の自然文化」、生活「買い出し」「夕食作り、夕食」 ・学習「奄美の歴史と産業」
1/11（日）	・生活「朝食づくり、朝食」
3/26（木）	・船中泊
3/27（金）	・オリエンテーション、郷土料理作り、ビーチクリーニング、天体観測
3/28（土）	・マングローブ林お見学とカヌー体験、大島紬泥染め体験、夜光会クラフト
3/29（日）	・黒糖づくり体験、奄美パーク見学、船中泊
3/30（月）	・研修のまとめ

資料

子供の貧困対策に関する大綱【抜粋】

第4 指標の改善に向けた当面の重点施策

1 教育の支援

(6) その他の教育支援

(多様な体験活動の機会の提供)

独立行政法人国立青少年教育振興機構が設置する国立青少年教育施設において、児童養護施設等の子供を対象に、自己肯定感の向上、生活習慣の改善等につながる多様な体験活動の場を提供するとともに、その成果を広く全国に周知することを通じて、各地域における取組を促進する。

また、「子どもゆめ基金」事業により、貧困の状況にある子供を支援している民間団体が行う体験活動への助成を行う。

平成 26 年度

子供の貧困対策事業「生活・自立支援キャンプ」報告書

平成 27 年 5 月発行

編集発行

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

教育事業部企画課

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1

TEL 03-3467-7201 (代表)

H P <http://www.niye.go.jp>